

MSI通信

Vol.267

前回のMSI通信 Vol.266では、「米政治分断が引き起こす金融波乱に注意」と題して、米大統領選の結果により発生が予想されていた米政治分断リスクについて取り上げました。世界中の多くの人々はその動向を見守ったのは、前回2020年の大統領選挙後の大混乱の記憶があったからに他なりません。

しかも、今回の米大統領選挙は直前まで世論調査の結果が拮抗し、歴史的な接戦とまで表現されていたことから、警戒感は結果判明まで維持されることになりました。

●選挙直前まで高騰したゴールド

市場価格で見て典型的な値動きは金価格でした。

相対的な安全資産として危機に強いとされる金（ゴールド）は、国際市場で欧米逃避マネーを集め、投票日前週の10月30日には、ニューヨーク市場の金先物価格は1トロイオンス（=31.1035グラム）2800.80ドルと史上最高値を更新して取引を終了しました。年初から史上最高値更新回数は39回目、年初来の上昇率は35.0%にも上りました。翌31日はさすがに利益確定売りと高値警戒感から売りが出され、10月は3.4%の上昇でした。ちなみに国内店頭小売価格は、この間の円安もあり、10月31日にグラム当たり（10%の税込みで）1万5162円と史上最高値を付けました。年初来45%の上昇でした。

●トランプ圧勝のトリプルレッド

ところが、選挙結果は報じられたように、トランプ候補の圧勝でサプライズとなりました。さらに議会選挙の方も、共和党が上院で多数党を奪還。11月13日には米NBCとCNNが、下院選挙でも共和党が多数派を

米政治分断リスクからトランプリスクへ

維持する見通しを報じました。

ホワイトハウスと上下院ともに共和党（シンボルカラーがレッド）支配という、いわゆる「トリプルレッド」が実現することになりました。トランプ次期大統領は野党民主党の抵抗を回避する形で、政策遂行が可能になる体制が整ったことになりました。

共和党下院議員の中にはフリーダムコーカスと呼ばれる保守強硬派議員のグループがあり、これまで法案提出及び採決を巡り、共和党内での意見対立も見られてきた経緯があります。ただし、このグループ自体がトランプ派であり、現ジョンソン下院議長自身もメンバーでもあります。トランプ次期大統領の権力行使に歯止めをかけるものは、ほぼなくなりました。

●米株式はトランプラリーの高騰

米株式市場は投開票翌日の6日にトランプ当確情報が出て以来、高騰を続け、主要株式指数は記録的なペースで史上最高値の更新をしてきました。ダウ30種平均は11月11日に4万4293.13ドルと、初めて4万4000ドル台で終了。

米株式市場は早くからトランプ優勢との見方から、公約に掲げる新たな企業減税や広範囲に及びそうな規制緩和策を好感し、上値を追ってきた経緯があります。それが選挙直前に、民主党ハリス候補との差が僅差との世論調査の結果で不安定化することもありましたが、思惑通りという結果に主要指数は軒並み高騰しました。「トリプルレッド」にしてもすでに織り込み済みで、その上で買い進められてきたと言えるでしょう。買われ過ぎ状態であるのは否めません。

●政権発足に周到な準備

株式市場が沸き立つのには、トランプ次期政権の動きの早さもありま

す。すでにマルコ・ルビオ上院議員を国務長官に指名するなど、主要ポストの任命が発表されているのです。第1次政権の際には主要人事に時間を要し、スタート時に政府機能が正常に働いていないとさえ指摘されました。今回は、ブレーンが「政権移行チーム」を早々に発足させ、準備を進めてきたようです。第1次政権では補佐官や主要閣僚の何名かがトランプ氏と衝突し、人事が安定しなかった経緯があります。そこで今回は、大統領の政策に忠誠な人物だけを雇う方針とされます。いわゆる「イエス・マン」を周りにそろえ、思うままに国家運営をする体制を整えているとされています。

●分断リスクからトランプリスクへ

いわば盤石とも言える体制の下で、これまで懸念されてきた25年度予算を巡る紛糾や、年明けに効力が復活する連邦債務上限法の債務限度の引き上げ審議などは順調に進むと見られ、こうした面での政治リスクは一気に解消することになりそうです。

一方で、中国に対する60%など幅広い関税賦課や、第1次政権で成立させた減税措置の延長と企業向けなど新たな減税公約、さらに不法移民の強制送還による労働市場への影響など、新たな政治的問題が浮上すると見られています。それらは財政赤字のさらなる拡大や、足元で沈静化しているインフレの再燃につながるとされています。

政治分断リスクは回避されたものの、今度は新たにトランプリスクが浮上する状況に変わりつつあるのです。ただし、少なくとも世界が警戒した米国の分断は回避されることになりました。

ちなみに分断リスクの低下を映し、足元で金市場は調整局面に入り、水準を切り下げています。

（11月14日記 クルー 亀井幸一郎）